

ねん がつ にち
2022年7月31日

ねんかんだい しゅじつ
年間第18主日

きくち いさおだい しきょう
菊地功大司教 メッセージ

コヘレトの言葉は、「何というむなしさ。すべてはむなし」と始まります。一体何がむなしのでしょうか。コヘレトの言葉はそのあとで、「全てに時がある」という有名な一節を記します。この時は時計で計ることのできる時間ではなく、被造物に対して神が定めた時のことを指していますが、その神の定めた時に逆らって生きようとする姿勢やその価値観を、コヘレトの言葉がむなしのだと指摘しています。

パウロはコロサイの教会への手紙で、「上にあるものを求めなさい。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」と述べています。ここにおいても、この世界を支配する人間的な価値観は、脱ぎ捨てるべき古い人の生き方を支配するものであって、造り主の姿に倣う新しい人を支配するものではない事を明示します。

ルカ福音は、自らのために蓄財しようと、新しく大きな蔵を建てようとしている金持ちのたとえ話を記しています。この世の価値観の典型である自分のための蓄財行為に対して、神が「愚か者よ、今夜お前の命は取り上げられる」と言ったというこのたとえ話は、まさしく、この世の価値観に支配され、徹底的に利己的な動機から行動するものに、その「むなしさ」を突きつけています。同時に、この世界を支配しているのは神であって、人間の都合で世界が動くわけではないと言う事実、すなわち、全ては神の時によって定められており、それに逆らうことは全くむなしとこのたとえ話は教えています。

まず、貧しい人のために積極的に出向いていく教会であることを求める教皇フランシスコは、回勅「兄弟の皆さん」に次のように記しています。

「世界はすべての人のために存在しています。人は皆、同じ尊厳を持って、この地球に生まれるからです」(118)

その上で教皇様は、「共同体としてわたしたちには、すべての人が尊厳を持って生き、

じゅうぜん はったつ てきせつ きかい え ほしやう せきむ する
十全な発達のための適切な機会が得られることを保障する責務があるのです」と記
します (118)

さらに ぎやうこうさま せい ことば いんよう する
さらに 教皇様は聖ヨハネ・クリズストモの言葉を引用して、こう記します。

「じぶん ざいさん まず ひとびと わ あた まず ひとびと ぬす
「自分の財産を貧しい人々に分かち与えないとすれば、それは貧しい人々のものを盗む
ことになり、かれらの生命を奪うこととなります。わたしたちが持っている物はわたした
ちのものではなく、まず ひとびと もの
ちのものではなく、貧しい人々の物です」 (119)

だいに こうかい ぎ げんだい せ かいけんしやう にんげん かち ひと なに も
第二バチカン公会議の現代世界憲章には、「人間の価値は、その人が何を持っているか
ではなく、どのような者であるかによる (35)」という一節があります。わたしたちは、
どのような者であろうとしているのでしょうか。自分自身を世界の中心に据え、自分の
けいかく じんせい うご おも こ い かた
計画で人生が動いていると思ひ込む生き方なのか、それともすべての人の尊厳が守られ、
たまもの いのち じゅうぜん はったつ きかい あた つと い かた
賜物である命が十全な発達の機会を与えられるよう努める生き方なのか。

ぎやうこうさま ふくいん よろこ する よ みみ かたむ おも
教皇様の「福音の喜び」に記された呼びかけに、あらためて耳を傾けたいと思います。

「でむ ひと
「出向いていきましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いていき
ましょう。・・・わたしは出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好
きです。閉じこもり、じぶん あんぜん ちたい きらく や ぎやうかい ほう す
自分の安全地帯にしがみつくと、気楽さゆえに病んだ教会よりも好き
です。(49)」

かみ さだ と き びんかん こころ む ごと したが じんせい あゆ
神の定められた時に敏感に心に向け、それを悟り、それに従う人生を歩みましょう。